

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日 令和4年1月27日

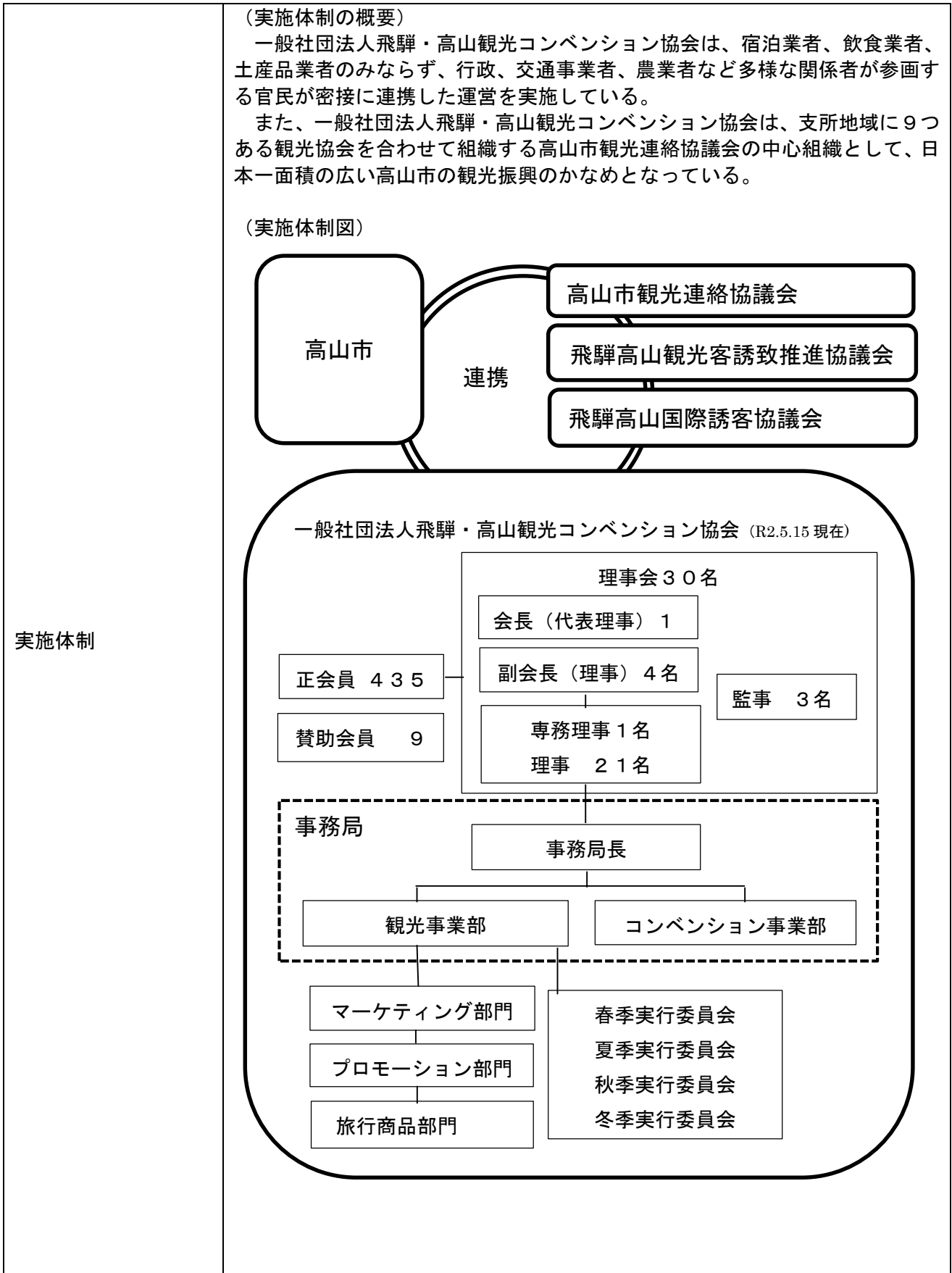
### 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人 飛騨・高山観光コンベンション協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	岐阜県高山市（広域的に飛騨市・大野郡白川村も対象）	
所在地	岐阜県高山市	
設立時期	昭和23年4月：高山観光協会 昭和57年12月21日：社団法人飛騨高山観光協会 平成23年2月23日：一般社団法人 飛騨・高山観光コンベンション協会	
職員数	8人【常勤6人（正職員5人、非正規職員1人）、非常勤2人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 堀 泰則 （出身組織名） （株）ひだホテルプラザ	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会会長として、地域の様々なパイプ役となっており、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている。
データ収集・分析等の専門人材（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー）	（氏名） 駒屋義明「専従」 （出身組織名） 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会事務局長として、観光地域マーケティングについて高い知見と能力を持つ。
コンベンション事業部 財務責任者 （CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 高原 透「専従」 （出身組織名） 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会コンベンション事業部長として、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
観光事業部 財務責任者	（氏名） 宇井瑞花「専従」 （出身組織名） 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会観光事業部主任として、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
観光事業 プロモーションの責任者（専門人材）	（氏名） 大洞幸雄 （出身組織名） 高山商工会議所	高山商工会議所参事（役員）として、国内外のプロモーションに高い能力を持つ。
コンベンション事業部	（氏名） 小瀬光則「専従」	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会次

(別添) 様式 1

<p>プロモーションの責任者 (専門人材)</p>	<p>(出身組織名) 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会</p>	<p>長として、国内外のプロモーション及び地元体験交流館運営などに高い能力を持つ。</p>
<p>観光事業部 旅行商品の造成・販売の責任者 (専門人材)</p>	<p>(氏名) 中道佐保海「専従」 (出身組織名) 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会</p>	<p>一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会の職員として、国内旅行業務取扱管理者の資格を有し、地域の観光資源に熟知している。第3種旅行業([平成30年4月11日登録])の知見を活かし着地型旅行商品等の造成等を行う予定である。</p>
<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>《高山市》 ○飛騨高山プロモーション戦略部 観光課：国内の誘客対策、マーケティング、統計等 ブランド戦略課：飛騨高山ブランドの確立、向上等 海外戦略課：国外の誘客対策、職員派遣（海外での直接情報発信等） ○商工労働部 商工振興課：伝統工芸の継承、物産の販路拡大等 ○企画部 高山東京事務所：首都圏での情報収集、発信等 ○建設部 建設課：国・県道等の事業調整等 中部縦貫自動車道推進室：中部縦貫自動車道の事業調整等 ○都市政策部 都市計画課：景観まちづくり、公共交通等 ○高山市教育委員会 文化財課：歴史的町並や歴史文化、伝統文化の保存、ユネスコ無形文化遺産、日本遺産等</p>	
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>【行政・民間で作る協議会】 ・飛騨高山観光客誘致推進協議会（国内誘客、二次交通アクセスの改善等） ・飛騨高山国際誘客協議会（国際誘客、外国人観光客受け入れの対策等） 【行政・民間が出資、設立する会社】 ・株式会社まちづくり飛騨高山（観光客誘致等による中心市街地の活性化） 【民間業者、組合との連携】 ・飛騨高山旅館ホテル協同組合ほか各種観光関連団体 （地域での自主的な経済活動促進により、その経済的地位の向上、確立） 【地域の観光協会等】 ・高山市観光連絡協議会（支所地域の観光協会との連携を図り、誘客等事業を共同で行い、地域経済の活性化を図る。） ・（一社）ふるさと体験飛騨高山（体験型旅行商品の造成やグリーンツーリズムの推進による観光客誘致） ・飛騨観光宣伝協議会（JR高山本線の活性化による観光客誘致の推進 北陸新幹線、東海道新幹線等との連動やアクセス改善） 【伝統文化を守る団体】 ・高山祭協賛会（伝統行事「高山祭」の斎行等への支援による観光客誘致の推進） ・高山祭屋台保存会（国指定有形民俗資料「高山祭屋台」の保存支援等による観光客誘致の推進） ・高山市景観町並保存連合会（古い町並の保存等への支援による観光客誘致の推進） 【県域を越えた団体等】</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぶり街道推進協議会（江戸時代から富山湾から運ばれた飛騨鯉にちなみ、その街道の行政、商工会議所、国道事務所等と連携し観光客誘致の推進）</li> <li>・ 北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会（ミシュランガイドブックに認定された3つ星地域の行政、民間団体、観光協会等が連携し、観光地のルート共同PRや観光客誘致の推進）</li> <li>・ 昇龍道プロジェクト（東海地方を中心とした国、県、地方公共団体、民間事業者等が幅広く連携し、互いの観光地域資源等を有機的に結び付け、連携し特に海外からの観光客誘致の推進）</li> </ul> <p>【民間事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濃飛乗合自動車(株)（2次交通）</li> </ul>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(概要)</p> <p>一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会組織に幅広い分野の関係団体の参画を得て構成するとともに、理事会においてもそれらの組織の代表者に参画してもらい、日常的な連絡体制や、実務者レベルとの会議を持つなど、高山市のみならず飛騨地域の全体の地域間連携を図っている。会員は、高山市という枠は設けておらず、幅広い会員の参画を推し進めている。</p> <p>① 平成の合併前から高山市全体の活性化のための経済団体組織として観光協会の組織としては、全国でも早くから法人格を取得し、自立した経済団体として飛騨高山観光のブランドを構築するとともに地域経済の牽引者としても一翼を担ってきている。合併後も飛騨地域の中心都市の観光協会としての責務を果たすべく活動</p> <p>② 特に「連携する事業者名及び役割」に記載のとおり、高山市域のみならず県境を越えた連携を図るとともに、実践的で実務的な計画の中で飛騨地域や岐阜県、富山県、金沢市、松本市等の広域的な観光客誘致に成功している。</p> <p>③ 高山市の様々な組織運営については、イベントの実施や観光客誘致等を実施するため基本的には官民一体となった組織作り（協議会等）を行い、行政機関とあらゆる関係団体の関係者等に参加してもらい実践的な組織として立上げ、予算、人的、目的等についてしっかりと合意形成を図り進めている。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>高山市とタイアップし「飛騨高山」の取組みを市民はじめ全国に紹介するとともに、他都市での先進的な取組みを自らも学ぶために「飛騨高山観光学」などと銘打って観光地域づくりの意識啓発や、観光産業参画者等のスキルアップ等を図るためのシンポジウムや分科会等を毎年実施している。さらに、市民等を対象に国内外の著名な講師を招き「観光振興や地域経済の活性化に役立てること」を目的とした観光セミナーを実施し、全市挙げて意識向上に努めている。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>長年にわたり、官民一体となり、観光宣伝及び観光客誘致、観光意識の普及向上と観光客に対する接遇の改善、外国人旅行者の受入体制の整備など実施している。</p> <p>(定量的な評価)</p> <p>令和2年の観光客入込総数は前年（473.3千人）の約半分以下（2301千人）となり厳しい経済状況の中でのスタートとなった。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いたかと思えば、再拡大するなど観光産業をはじめとした産業全体に大きなダメージを受けたが、行政のコロナ関連支援事業補助金を活用し、地域経済の底上げに力を注いだ。</p>



## 2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

平成17年2月に市町村合併した現在の基礎自治体である高山市を一体とした観光地域とする。また、合併以前の市町村で活動していた観光協会の連絡協力を目的とした「高山市観光連絡協議会」を設立し、観光宣伝、イベント事業を展開している。また、飛騨地域の広域観光として飛騨市・大野郡白川村とも連携している。

【観光客の実態等】

令和2年の観光客入込み者数は、230万1千人（対前年比48.62%）で、宿泊者数は106万7千人（対前年比46.96%）、日帰り客数は123万4千人（対前年比50.14%）となり厳しい状況となった。また、春と秋の高山祭や多くの行事が中止となった。

外国人観光客数も宿泊ベースで10万8千人と対前年比17.76%と大幅に減少した。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

春と秋の高山祭（ユネスコ無形文化遺産登録「高山祭の屋台行事」）、古い町並（上三之町、下二之町、大新町）、宮川と陣屋前の朝市、高山陣屋（国指定史跡）、高山祭屋台会館、飛騨の里（国指定重要文化財 4棟）、日下部民藝館（国指定重要文化財）、吉島家住宅（国指定重要文化財）

北アルプス（飛騨山脈）、奥飛騨温泉郷（平湯温泉、福地温泉、新平湯温泉、栃尾温泉、新穂高温泉）、乗鞍岳、乗鞍スカイライン、飛騨大鍾乳洞、乗鞍山麓五色ヶ原の森、千光寺（円空仏寺宝館）、宇津江四十八滝（岐阜県立自然公園）、安国寺（国宝）、荒城神社（国指定重要文化財）、清峯寺（円空仏）、荘川の里、荘川桜（岐阜県指定天然記念物）、せせらぎ街道、野麦峠（映画「ああ 野麦峠」の舞台）、スキー場

歴史街道（位山官道、江戸街道、野麦街道、越中街道、ぶり街道）

(別添) 様式 1

飛驒の匠の技 (飛驒の家具、伝統的工芸品「飛驒春慶」、伝統的工芸品「一位一刀彫」)  
 ・ ・ ・ 日本遺産認定「飛驒匠の技・こころ」～木とともに、いまに引き継ぐ1300年～  
 飛驒の食 (宗和流本膳、精進料理、飛驒の地酒、飛驒の漬物、朴葉味噌、飛驒牛、飛驒の高原野菜)

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

	R3.1.1 現在							
	高山市(全体)		内 訳					
			高山地域		上宝地域		その他地域	
	施設数 (軒)	収容人員 (人)	施設数 (軒)	収容人員 (人)	施設数 (軒)	収容人員 (人)	施設数 (軒)	収容人員 (人)
ホテル 旅館	236	18,107	78	9,138	103	6,539	55	2,430
簡易 宿 所	144	1,890	123	1,394	5	127	16	369
国民宿舎 公共施設	2	54	0	0	1	48	1	6
社会教育 施 設	2	487	1	459	0	0	1	28
ユース ホステル	1	60	1	60	0	0	0	0
民宿	31	-	26	-	0	0	5	-
合 計	416	20,598	229	11,051	109	6,714	78	2,833

【利便性：区域までの交通、域内交通】

◎関東から

○鉄道利用

- ・東京 = (東海道新幹線) = 名古屋 = (高山本線) = 高山 (4時間5分)
- ・東京 = (北陸新幹線) = 富山 = (高山本線) = 高山 (3時間38分)

○自動車利用

- ・調布 = (中央道) = 松本 = (R158～安房トンネル～R158) = 高山 (4時間20分)

○高速バス利用

- ・新宿 = (中央道～R158) = 平湯温泉 = R158 = 高山 (5時間30分)

◎関西から

○鉄道利用

- ・新大阪 = (東海道新幹線) = 名古屋 = (高山本線) = 高山 (3時間10分)
- ・大阪 = (高山直通：東海道新幹線、高山本線) = 高山 (4時間15分)

○自動車

- ・豊中 = (名神) = 一宮JCT = (東海北陸道) = 飛驒清見IC = (中部縦貫) = 高山 (4時間)

○高速バス利用

- ・大阪なんば・大阪駅前(東梅田) = 京都駅前 = (名神～東海北陸道) = 高山 (5時間30分)

◎中部国際空港から

○鉄道利用

- ・空港 = (名古屋鉄道) = 名古屋 = (高山本線) = 高山 (3時間)

○自動車利用

(別添) 様式 1

・空港 = (知多半島道路～名古屋高速) = 一宮 I C = (名神高速道～東海北陸道～中部縦貫道) = 高山 I C = 高山 (3 時間)

○鉄道及び高速バス利用

・空港 = (名古屋鉄道) = 名鉄名古屋・名鉄バスセンター = (東海北陸道～中部縦貫道) = 高山 I C = 高山 (3 時間 25 分)

◎北陸から

○鉄道利用

・富山 = (高山本線) = 高山 (1 時間 30 分)

○バス利用

・金沢 = (北陸道・東海北陸道) = 白川郷 = (東海北陸道) = 高山 (2 時間 15 分)

・富山 = (北陸道・東海北陸道) = 白川郷 = (東海北陸道) = 高山 (2 時間 25 分)

◎地域内交通

○市街地中心部の観光には徒歩又はレンタサイクル

【高山駅から徒歩 15 分】古い町並、宮川朝市・陣屋前朝市、高山陣屋

【高山駅から徒歩 20 分】高山祭屋台会館

○市街地周辺の観光にはコミュニティバス若しくはタクシー

・まちなみバス (市街地周遊バス)、のらマイカー (郊外周遊バス)、さるぼぼバス (飛驒の里・飛驒センター周遊バス)

・タクシー (車いすでご利用できる福祉タクシー有)

○奥飛驒温泉郷には路線バス若しくはタクシー

・路線バス 高山駅前濃飛 B C = (1 時間) = 平湯 B C = (45 分) = 新穂高温泉

・タクシー (観光コースの設定あり)

○その他の観光地にはタクシー若しくは自家用車利用

【外国人観光客への対応】

○J N T O 認定外国人観光案内所の設置

J R 高山駅前の「飛驒高山観光案内所」が昭和 6 2 年 1 1 月に「i」案内所に指定。平成 2 4 年 1 0 月に J N T O 認定の外国人観光案内所カテゴリー 1 に認定、平成 2 5 年 1 2 月にカテゴリー 2 の案内所に認定。

また、一般社団法人飛驒・高山観光コンベンション協会が運営する「中橋観光案内所」も平成 2 6 年 1 2 月 2 5 日に外国人観光案内所カテゴリー 2 に認定。その他に市内にカテゴリー 1 の案内所がある。

○外国語パンフレット・DVD の作成

・パンフレット及び散策マップは、英語、韓国語、中国語 (繁体字、簡体字)、タイ語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ヘブライ語の 1 1 言語

・DVD は、4 言語 (英語、韓国語、中国語 (繁体字、簡体字)) としたものと、フランス語、台湾用を作成

○おもてなし国際化促進事業

・外国人観光客を受け入れるため自社パンフレット、看板等の多言語化に対し行政が補助

○消費税免税制度の活用促進

・市内事業者を対象とした消費税免税制度に関する研修会等を開催

・免税カウンターの設置：一般社団法人飛驒・高山観光コンベンション協会において平成 2 9 年 1 0 月 7 日から「手続委託型輸出物品販売場 (免税カウンター)」を設置。取扱い営業を開始

○無料公衆無線 LAN の整備

・「インターネット接続環境」の提供と「観光・緊急情報等」の発信

○通訳ガイドの育成・確保

・ボランティア通訳による市民と外国人観光客の交流促進、観光案内のための研修会を実施

(別添) 様式 1

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地特例通訳案内士の養成講座を実施</li> <li>○ 観光ホームページの多言語化 (スマホ対応)</li> <li>・ 英語、中国語 (繁体字、簡体字)、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、タイ語の 11 言語</li> <li>・ 英語による Facebook 及び中国語による微博 (Weibo) 等での情報発信。</li> <li>○ 手ぶら観光サービス窓口の設置</li> <li>・ 訪日外国人旅行者等の旅行の利便性を確保するために「佐川急便 (株)」と契約し、一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会が運営する「中橋観光案内所」内に窓口を設置。平成 30 年 4 月 2 日から運用。</li> </ul>
--

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	高山市HPの観光情報サイト、一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会、また飛騨高山旅館ホテル協同組合が運営するHPのアクセス状況を分析。また、高山市観光客誘致推進事業補助金を受けて実施しているWEBサイトエリア事業、hidabito.jp 事業等におけるアクセス状況の分析等により効果測定を実施。
住民満足度指標	<p>「観光客で市内がにぎわい、観光産業が活性化している」と感じている市民の割合を図るため</p> <p>「外国人で市内がにぎわい、観光産業が活性化している」と感じている市民の割合を図るため</p>	行政 (高山市) が、5 年毎にアンケート調査を実施。
観光客入込者数 (日帰り、宿泊別)	高山市を訪れる観光客の実態等を把握するため	行政 (高山市) が、毎年の観光関連事業者 (観光施設、宿泊施設など) からの報告と観光客に対する観光動態アンケートを実施。高山市観光動態アンケートの調査結果は、高山市HP「観光統計」として公開。
方面別内訳 (宿泊客)		
交通機関の利用状況		
教育旅行の状況		
観光施設別入込状況		
目的別		
来訪回数		
再来訪の意向		
観光客消費額		



## 4. 戦略

### (1) 地域における観光を取り巻く背景

高山市も人口減少が進んでおり、高山市の基幹産業である観光産業においても、就労者の確保や高齢化等による承継問題などがある中、観光地域づくり法人(DMO)として、雇用の創出や担い手不測の解消のためにも、新たな観光資源の掘り起こしや魅力の創出、ホスピタリティの醸成など、持続可能な観光地づくりを官民一体となり目指していく。

### (2) 地域の強みと弱み

	好 影 響	悪 影 響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <p>○自地域で積極的に活用できる強みは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官民一体となった観光客誘致活動</li> <li>・歴史的文化的景観、資源の豊富さ</li> <li>・おもてなしの心</li> <li>・ゆたかな自然環境や農山村景観</li> <li>・国内有数の国際観光都市</li> <li>・国内有数の観光地が周辺にも存在</li> <li>・宿泊施設が多い</li> <li>・ハブ機能の役割</li> </ul>	<p>弱み (Weaknesses)</p> <p>○自地域で改善を必要とする弱みは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な市域に有する地域資源の磨き上げ</li> <li>・地域内の公共交通対策</li> <li>・冬期間の観光客誘致</li> <li>・山岳観光地の入込の減少</li> </ul>
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <p>○自地域にとって追い風となる要素は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸新幹線の開業及び延伸 (関西圏周遊)</li> <li>・JR東海高山本線への特急新型車両導入</li> <li>・東海北陸自動車道路 (高速道路) の四車線化</li> <li>・中部縦貫自動車道の整備促進</li> <li>・政府による訪日外国人旅行者の受入環境整備の促進</li> <li>・国立公園満喫プロジェクト及びこれに準じた国立公園での取組み推進 (中部山岳国立公園活性化への取組み (環境省・岐阜県))</li> <li>・ミシュラングリーンガイドジャポンへの3つ星での掲載</li> <li>・ユネスコ無形文化遺産登録「高山祭の屋台行事」</li> <li>・日本遺産認定「飛騨匠の技・こころ」～木とともに、いまに引き継ぐ1300年～</li> </ul>	<p>脅威 (Threat)</p> <p>○自地域にとって逆風となる要素は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港等からのアクセス</li> <li>・国内旅行者の減少</li> <li>・国民の旅行関連支出の減少</li> <li>・バス規制によるバスツアーの減少</li> <li>・日本社会の少子化の加速</li> <li>・都市部への一極集中化 (もの・金・ひと)</li> <li>・労働力人口の減少</li> <li>・観光地間の競争</li> <li>・大雨・台風・地震災害等による公共交通機関の運行ストップや交通網の寸断</li> <li>・ホテル等の進出等による地元資本事業者との競争の激化</li> </ul>

### (3) ターゲット

○第1ターゲット層  
外国人観光客 (主に欧米やアジア)

○選定の理由  
国際競争力の強化。

○取組方針  
① 魅力ある観光エリア・周遊ルートの形成

(別添) 様式 1

<ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢市や白川郷、松本市などの県境を越えた周辺観光地との連携 (北陸・飛騨・信州3つ星街道協議会等)</li> <li>② 外国人観光客のニーズに応えられる受入体制の強化             <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に対する歴史・文化などの郷土教育(金森公顕彰会・山岡鉄舟翁顕彰会等)</li> </ul> </li> <li>③ 地域に存在する個性的な資源を活用した誘客活動の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客に配慮したサービスの充実</li> <li>・消費税免税制度の活用促進、免税カウンターの設置、手ぶら観光サービス窓口の設置</li> <li>・通訳ガイドの育成・確保</li> </ul> </li> <li>④ 多言語観光パンフレット・ホームページ等の充実による情報発信の充実</li> <li>⑤ 外国人がひとりで観光できる環境づくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜のまち歩き、屋台村等の活用、アクティビティの造成</li> </ul> </li> </ul>
<p>○第2ターゲット層 宿泊客(国内外観光客)</p>
<p>○選定の理由 観光消費額の多い宿泊を伴う観光客(コンベンション誘致に伴う宿泊者等含む。)は、地域経済への波及効果大きい。</p> <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域が提案する魅力ある着地型ツアーの造成</li> <li>② マーケティングの充実による宿泊に繋がる要因の分析と分析に基づいた地域資源の磨き上げ</li> <li>③ 地域内外の2次交通の整備及び活用</li> <li>④ アクティビティの造成</li> </ul>
<p>○第3ターゲット層 MICEの主催団体等</p>
<p>○選定の理由 観光を目的としないコンベンションや若年層が参加する大学等のゼミ合宿などを誘致することで、飛騨高山の歴史文化等の魅力に触れ、観光客として再訪するきっかけになると考えられる。</p> <p>○取組方針 1年を通じて誘致ができるコンベンション(スポーツ含む)や大学等のゼミ合宿への開催支援</p>

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「飛騨高山」の魅力が伝わり、多くの観光客でにぎわっている。
②コンセプトの考え方	「飛騨高山」というブランドを確立し、他地域との差別化を図り、多くの観光客により多くの消費がなされ経済的に観光産業をはじめとした地域産業の活性化が図られていく。

## 5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項 目	概 要
戦略の多様な関係者との共有	<p>一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会が中心となり市内の観光関連機関及び事業者と連携し、効果的なタイミング、手法等によりプロモーションを実施。特に当該法人の理事会は、市内の各事業者の組合等の代表者や運輸関係事業者、金融関係、宿泊事業者等の事業者も幅広く参画しており、上半期、下半期に1回は、必ず情報交換の場を設け現状分析や、最近の取組み等意見交換等を実施。</p> <p>また、関連の協議会組織等の総会やイベント実行委員会等においても定期的に情報交換を実施。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>来訪者の満足度を上げるため、市内観光関連事業者を対象としたおもてなしをテーマにした観光ゼミの開催。また、市内商工業団体が中心になって取り組む土産品振興推奨制度や行政が実施する「メイドバイ飛騨高山」認証制度への参画</p>
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>JR高山駅前の飛騨高山観光案内所(カテゴリ-2指定)と一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会が運営する中橋観光案内所(カテゴリ-2指定)の機能強化(ワンストップ窓口等の整備)と、周辺の観光地(行政地域を超えた観光地等含む)も含めた官民一体となった効果的なプロモーションの実施</p>

## 6. K P I (実績・目標)

### (1) 必須K P I

指標項目		2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)
●旅行消費額 (百万円)	目標	76,000 (17,000)	95,000 (19,720)	90,000 (10,200)	50,000 (3,740)	59,600 (4,080)	72,600 (5,100)
	実績	93,371 (18,768)	101,285 (20,965)	46,577 (3,714)	— (—)	— (—)	— (—)
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	2,300 (500)	2,380 (580)	1,900 (300)	2,000 (110)	2,400 (120)	2,400 (150)
	実績	2,210 (552)	2,272 (612)	1,167 (108)	— (—)	— (—)	— (—)
●来訪者満足度 (%)	目標	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)
	実績	97.16 (98.90)	98.66 (98.00)	97.92 (—)	— (—)	— (—)	— (—)
●リピーター率 (%)	目標	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)
	実績	70.14 (9.10)	65.24 (—)	72.79 (—)	— (—)	— (—)	— (—)

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

## 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

行政主導であった観光協会の運営体制について、「民間でできることは民間で」という考えの中で昭和57年に法人化を図り、自主・自立の体制を整える中で、「飛騨高山」の観光産業の発展や飛騨高山ブランドの確立に貢献。

年間のイベント実施、観光客の入込数の数値目標等を行政側と一体（官民一体）となって構築し、来訪者へのアンケート調査を継続的に実施しながら「飛騨高山観光」の強み、弱さを分析しつつ、現在の飛騨高山における観光産業発展（経済活動指標）のひとつとしての原動力（牽引数値）となっている。このアンケート調査項目等を充足しつつ現在のサンプル項目としている。

### 【設定にあたっての考え方】

基本的には、高山市第八次総合計画（2015年～2024年）による最終目標年度2024年（令和6年）の目標数値と整合性を持たせたものとしている。既に旅行消費額は、目標額を超えているが、この総合計画における最終年の目標値は変更があるまでこのままとする。達成した実績数値を更に更新するよう努力し、事業等を展開する。

なお、コロナ禍の中前年実績を踏まえ目標を下方修正した。

#### ●旅行消費額

年間の観光客数入込の目標数値に近づけるイベントや誘致活動等を実施。旅行消費額についても、観光客からのアンケート調査より平均的な一人当たりの額（宿泊客、日帰り客）を算出。そのうえで、日帰り客数及び宿泊者数に乗じて算出。精度の高い数値と考えており各年次の観光客数入込の目標数値と連動して設定。また、別に「経済波及効果総額」も算出。

#### ●延べ宿泊者数

延べ宿泊者数については、各旅館・ホテル・民宿等からの報告により取りまとめしている。ただし、調査に協力してもらえない施設、急激に伸びている「民泊」等の数値が把握できない現状にあり、毎年の調査報告より実態は多くなるものと考えている。

#### ●来訪者満足度

「来訪者満足度」についても、観光客からのアンケート調査（サンプル項目：再来訪の意向）により数値を算出。過去のデータを踏まえる中で、日頃の努力の甲斐あって高い満足率維持しており、今後の数値目標も「飛騨高山観光」のイメージアップを更に図るための目標値として継続的に高い位置におき各種事業を展開する原動力として設定。

外国人観光客の数値については、今後の期待値も込めた目標数値としている。

#### ●リピーター率

「リピーター率」についても、観光客からのアンケート調査（サンプル項目：来訪回数）により数値を算出。過去のデータを踏まえる中で、日頃観光客誘致や道路交通網整備等に対する要望の基礎通知等として活用。

外国人観光客の数値については、今後の期待値も込めた目標数値としている。

## (2) その他の目標

指標項目		2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)
●観光客数（千人）	目標	4,000 (500)	4,520 (580)	3,800 (300)	2,350 (110)	2,900 (120)	3,550 (150)
	実績	4,442 (552)	4,733 (612)	2,301 (108)	— (—)	— (—)	— (—)

(別添) 様式 1

●ホームページアクセス数（ページビュー） （万ビュー）	目標	400.0 (60.0)	400.0 (80.0)	390.0 (100.0)	400.0 (110.0)	400.0 (115.0)	400.0 (115.0)
	実績	451.4 (94.7)	386.4 (97.6)	312 (—)	— (—)	— (—)	— (—)
●コンベンション等 開催件数（件） （）は国際会議	目標	90 (1)	95 (1)	50 (0)	50 (1)	60 (1)	70 (1)
	実績	94 (2)	99 (4)	11 (0)	— (—)	— (—)	— (—)

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

**指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方**

**【検討の経緯】**

長年の観光客に対するアンケート調査、各観光施設・旅館・ホテル・民宿からの宿泊者の報告、高速バス運行や東海北陸自動車道清見ゲート及び中部縦貫自動車道安房トンネルゲートでの車の出入り数等に基づき飛騨高山への観光客の総入込について調査分析し設定。全体の中心目標値になるため多方面からの要素をしっかりと取り入れながら分析。

なお、これらの目標数値は高山市のまちづくり指標の分野別「産業・労働」計画目標として高山市第8次総合計画（2015～2024）に反映されている。この目標数値設定については、市民、各種団体からなる高山市総合計画審議会の中で協議されて高山市全体の政策の柱となっている。

**【設定にあたっての考え方】**

●観光客数

「検討の経緯」で述べた通り飛騨高山への観光客の総入込について調査分析し設定。全体の中心目標値になるため多方面からの要素をしっかりと取り入れながら分析。現在は、高山市第八次総合計画（2015～2024）の最終目標年度2024年（令和6年）における観光客入込者数（年間）500万人を目標に設定。

●ホームページアクセス数（ページビュー）

国内外への情報発信ツールとして、平成8年から多言語化に取り組み、日本語のほか11言語で、飛騨高山の魅力や四季を通じた見所など世界に発信することで、飛騨高山に対する興味度などを把握し効果的な情報発信分析数値として設定。

●コンベンション等開催件数

国内観光客の減少する中、コンベンション（学会、会議等）や大学等のゼミ合宿の誘致（補助制度あり）を行うことにより、観光が目的でなく飛騨高山に来訪した方に魅力を体感していただくことで、幅広い世代に対しPRすることで、「飛騨高山」の観光を安定的に維持・発展できる要素として重要であることを考え目標数値として設定。また、飛騨高山大学連携センターとも連携し、大学等のゼミ合宿の誘致等を積極的に行っている。

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

## (1) 収入

年度	総収入(円)	内 訳	
2018 (H30) 年度	58,179,600円	(1) 会費収入	17,120,000円
		(2) 事業収入	7,518,068円
		(3) 補助金等収入	17,267,000円
		(4) 負担金収入	1,772,080円
		(5) 寄附金収入	413,010円
		(6) 受託費収入	13,579,999円
		(7) 雑収入	509,443円
2019 (R1) 年度	67,530,219円	(1) 会費収入	17,150,000円
		(2) 事業収入	15,226,073円
		(3) 補助金等収入	17,700,000円
		(4) 負担金収入	1,527,840円
		(5) 寄附金収入	400,480円
		(6) 受託費収入	15,110,000円
		(7) 雑収入	415,826円
2020 (R2) 年度	92,594,403円	(1) 会費収入	16,990,000円
		(2) 事業収入	8,439,061円
		(3) 補助金等収入	42,316,159円
		(4) 負担金収入	4,737,224円
		(5) 寄附金収入	0円
		(6) 受託費収入	19,543,000円
		(7) 雑収入	568,959円
2021 (R3) 年度	47,040,900円	(1) 会費収入	8,505,000円
		(2) 事業収入	6,050,000円
		(3) 補助金等収入	15,591,000円
		(4) 負担金収入	933,600円
		(5) 寄附金収入	0円
		(6) 受託費収入	15,110,000円
		(7) 雑収入	851,300円
2022 (R4) 年度	37,056,000円	(1) 会費収入	8,505,000円
		(2) 事業収入	6,050,000円
		(3) 補助金等収入	15,591,000円
		(4) 負担金収入	1,000,000円
		(5) 寄附金収入	0円
		(6) 受託費収入	5,110,000円
		(7) 雑収入	800,000円
2023 (R5)	49,800,000円	(1) 会費収入	17,000,000円

## (別添) 様式 1

年度	(2) 事業収入	10,000,000円
	(3) 補助金等収入	16,000,000円
	(4) 負担金収入	1,000,000円
	(5) 寄附金収入	0円
	(6) 受託費収入	5,000,000円
	(7) 雑収入	800,000円

## (2) 支出

年度	総支出(円)	内 訳
2018 (H30) 年度	57,013,530円	(1) 事業費 32,017,449円 ・コンベンション事業 6,676,973円 ・観光宣伝誘致事業 3,147,566円 ・イベント開催事業 14,021,685円 ・体験交流館受託事業 7,824,783円 ・観光意識普及向上事業 151,701円 ・観光資源保全開発整備事業 70,000円 ・調査研究費 9,222円 ・観光インフォメーション事業 115,519円 (2) 管理費 21,996,081円 (3) 投資活動費 3,000,000円
2019 (R1) 年度	67,093,568円	(1) 事業費 40,513,576円 ・コンベンション事業 3,865,200円 ・観光宣伝誘致事業 3,478,446円 ・イベント開催事業費 22,372,751円 ・体験交流館受託事業 10,406,052円 ・観光意識普及向上事業 106,752円 ・観光資源保全開発整備事業 70,000円 ・観光インフォメーション事業 214,375円 (2) 管理費 25,675,543円 (3) 投資活動費 904,449円
2020 (R2) 年度	87,872,794円	(1) 事業費 62,671,314円 ・コンベンション事業 2,858,327円 ・観光宣伝誘致事業 1,913,371円 ・イベント開催事業 47,467,998円 ・体験交流館受託事業 10,052,302円 ・観光意識普及向上事業 93,603円 ・観光資源保全開発整備事業 70,000円 ・調査研究費 0円 ・観光インフォメーション事業 215,713円 (2) 管理費 24,587,800円 (3) 投資活動費 613,680円
2021 (R3) 年度	52,892,438円	(1) 事業費 28,671,438円 ・コンベンション事業 4,642,000円 ・観光宣伝誘致事業 2,592,000円 ・イベント開催事業 11,137,438円 ・体験交流館受託事業 10,000,000円 ・観光意識普及向上事業 96,000円

(別添) 様式 1

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源保全開発整備事業 70,000円</li> <li>・調査研究費 10,000円</li> <li>・観光インフォメーション事業 124,000円</li> <li>(2) 管理費 24,221,000円</li> </ul>
2022 (R4) 年度	39,500,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業費 15,000,000円                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンベンション事業 4,500,000円</li> <li>・観光宣伝誘致事業 3,000,000円</li> <li>・イベント開催事業 7,220,000円</li> <li>・観光意識普及向上事業 100,000円</li> <li>・観光資源保全開発整備事業 70,000円</li> <li>・調査研究費 10,000円</li> <li>・観光インフォメーション事業 100,000円</li> </ul> </li> <li>(2) 管理費 24,500,000円</li> </ul>
2023 (R5) 年度	44,500,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業費 20,000,000円                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンベンション事業 6,720,000円</li> <li>・観光宣伝誘致事業 3,000,000円</li> <li>・イベント開催事業 10,000,000円</li> <li>・観光意識普及向上事業 100,000円</li> <li>・観光資源保全開発整備事業 70,000円</li> <li>・調査研究費 10,000円</li> <li>・観光インフォメーション事業 100,000円</li> </ul> </li> <li>(2) 管理費 24,500,000円</li> </ul>

**(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針**

現状の収入源は、会員の会費収入と行政からの観光事業・コンベンション事業補助金、民間企業からの寄附、他の協議会の事務受託収入、事業受託収入などとなっている。高山市からの補助金は、入湯税が財源となっており、今後もこのような運営資金を確保できる見込みである。なお、一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会は、今後も会員の拡大に努めるとともに、事務受託、着地型旅行商品の取扱いも視野に入れた収益事業収入の確保が課題であり、その体制づくりのため現在検討を重ねている。

**8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見**

高山市は、一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会を高山市における「地域DMO」として登録したいので、一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会とともに申請します。

**9. 記入担当者連絡先**

担当者氏名	高原 透
担当部署名 (役職)	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会 コンベンション事業部長
所在地	岐阜県高山市本町1丁目2番地



(別添) 様式 1

電話番号 (直通)	0577-36-3315
FAX 番号	0577-36-0091
E-mail	t.takahara@hidanet.ne.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	岐阜県高山市
担当者氏名	田中 一樹
担当部署名 (役職)	高山市役所 飛騨高山プロモーション戦略部観光課誘客戦略係 係長
所在地	岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
電話番号 (直通)	0577-35-3145
FAX 番号	0577-35-3167
E-mail	ka.tanaka@city.takayama.lg.jp

都道府県・市町村名	岐阜県高山市
担当者氏名	森 由貴
担当部署名 (役職)	高山市役所 飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課海外戦略係 係長
所在地	岐阜県高山市花岡町2丁目18番地
電話番号 (直通)	0577-35-3346
FAX 番号	0577-35-3167
E-mail	yo.mori@city.takayama.lg.jp

法人名：一般社団法人飛驒・高山観光コンベンション協会

コンセプト：「心のふるさと飛驒高山」の魅力が伝わり、多くの観光客でにぎわっている

登録区分名：地域DMO

【区域】岐阜県高山市（飛驒市、大野郡白川村連携）

【設立日】昭和57年12月21日に発足、平成23年2月23日に一般社団法人化し名称変更

【登録日】平成29年11月28日

【代表者】堀 泰則

【マーケティング責任者(CMO)】駒屋義明

【財務責任者(CFO)】高原 透

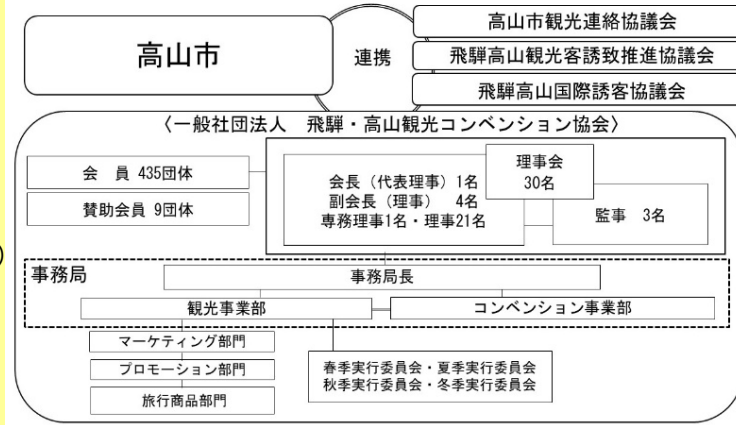
【職員数】8人

(常勤6人(正職員5人、非正規職員1人)、非常勤2人)

【連携する主な事業者】

高山商工会議所、飛驒高山旅館ホテル協同組合  
奥飛驒温泉郷観光協会ほか支所地域観光協会  
交通事業者、飲食業組合等各観光関連事業者ほか

## 実施体制



## マーケティング・マネジメントする区域



## 合意形成の仕組み

【該当する登録要件】(該当番号)

【概要】

観光関連組合等の代表者や支所地域の観光協会が当DMOの会員となり事業運営等に参画していることをはじめ、行政とも連携する中で多様な立場、関係者との合意形成を行っている。

## 法人のこれまでの活動実績

官民一体となった活動実績

【情報発信・プロモーション】

- ・海外(台湾)及び国内(北海道、首都圏、関西圏、九州等)での誘客事業
- ・SNS等を活用した情報発信事業
- ・県境を越えた広域連携事業

【観光資源の磨き上げ】

- ・先人が残した自然、歴史、文化、食など資源を新たな視点での活用やブランド化の取り組み

【受入環境の整備】

- ・ソフト面、ハード面でのバリアフリーの推進
- ・おもてなし国際化促進事業の推進
- ・観光案内所の整備

## 戦略

【主なターゲット】

- ・訪日旅行者(主に欧米やアジア)
- ・宿泊を伴う旅行者(滞在型観光の推)
- ・MICEの促進(コンベンション、ゼミ合宿)

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・外国人観光客については、県境を越えた魅力ある観光エリア・周遊ルートの形成、消費税免税制度の活用推進などの取り組み
- ・観光消費額の多い宿泊を伴う旅行者の確保については、着地型ツアーの造成、地域資源の磨き上げ(体験事業強化)、2次交通の整備充実などの取り組み
- ・コンベンションなどの誘致については、団体等の事務局や大学に出向きアフターコンベンションの魅力も含めた誘致の取り組み

## 観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

これまでと同様官民一体となり、多様な観光関連事業者と連携を図り、観光統計などの分析により戦略的、かつ、効果的な誘客事業を推進する。

## KPI(実績・目標)

※( )内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	
旅行消費額 (百万円)	目標	76,000 (17,000)	95,000 (19,720)	90,000 (10,200)	50,000 (3,740)	59,600 (4,080)	72,600 (5,100)
	実績	93,371 (18,768)	101,285 (20,973)	46,577 (3,714)	-	-	-
延べ宿泊者数 (千人)	目標	2,300 (500)	2,380 (580)	1,900 (300)	2,000 (110)	2,400 (120)	2,400 (150)
	実績	2,210 (552)	2,272 (612)	1,167 (108)	-	-	-
来訪者満足度 (%)	目標	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)	98.00 (98.00)
	実績	97.16 (98.90)	98.66 (98.00)	97.92 (-)	-	-	-
リピーター率 (%)	目標	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)	70.00 (20.00)
	実績	70.14 (9.10)	65.24 (-)	72.79 (-)	-	-	-

## 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】 会費、補助金、受託収入等：約93百万円(R2年度)

【総支出】約87百万円(一般管理費25百万円、事業費62百万円)

※R2年第11期決算

【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】

会員の拡大に努めるとともに、事務受託、着地型旅行商品の取り扱いなどの収益事業の検討を進めていく。